



地域と学校の よりよい連携・協働を目指して

ver.1

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進へ向けたガイドブック～

岡山県教育委員会

令和7年11月発行

目 次

ガイドブックの目的・特徴・活用方法・活用場面例・用語・マークについて……………	1
1 地域と学校の連携・協働とは……………	2、3
2 地域と学校の連携・協働のステージ……………	4、5
3 地域と学校の連携・協働チェックシート……………	6、7
4 (1)地域 ステージ1→2へのポイント……………	8、9
(2)学校 ステージ1→2へのポイント……………	10、11
5 (1)地域 ステージ2→3へのポイント……………	12、13
(2)学校 ステージ2→3へのポイント……………	14、15
6 (1)地域 ステージ3→4へのポイント……………	16、17
(2)学校 ステージ3→4へのポイント……………	18、19
7 熟議を取り入れよう 熟議って何？……………	20、21
熟議モデルプログラム……………	22、23
熟議わくわくアイデアシート……………	24
熟議モデルワーク……………	25、26
アイスブレイクの活動例……………	27、28
8 参考資料 役割チェックリスト……………	29～32
9 参考文献等一覧……………	33

ガイドブック作成の目的

このガイドブックは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る関係者が地域や学校の実態や課題に対して共通認識をもつことや、地域や学校の実態に対して、どのような働きかけをすれば良いのかその一例を示したものになっています（行政担当者はもちろん、学校管理職、地域連携担当教職員や学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員の方が読まれても参考になるものとなっています）。

岡山県教育委員会では今後も様々な事例を集め、ガイドブックをバージョンアップしていきたいと考えています。このガイドブックが大いに活用され、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に役立てていただけることを期待しています。

ガイドブックの特徴

- ・ 地域と学校の連携・協働の状態をステージごとに整理
- ・ 現在のステージを確認できるチェックシート付き
- ・ ステージアップのポイントを解説（青…地域側、オレンジ…学校側）

活用方法

- ① 地域と学校の連携・協働の状態を表したステージを見る。
- ② P6・P7のチェックシートで、関係する地域や学校の状態を確認しステージを確定する。
- ③ ステージアップのための関連ページを読み、具体的な手立てを考え、実行する。

活用場面例

- ・ 市町村教育委員会の研修会（管理職研修、地域連携担当教職員研修、推進員連絡等）
- ・ 学校運営協議会
- ・ 校内研修
- ・ 地域連携担当教職員と地域学校協働活動推進員の打合せの会



用語について

- ・ コミュニティ・スクールは、P4以降「CS」と表記します。
- ・ 学校運営協議会は、P4以降「学運協」と表記します。
- ・ 地域学校協働活動推進員は、P4以降「推進員」と表記します。

地域

学校

行政

マークについて

ステージアップのポイントを解説するページには、地域・学校・行政のどこに主体がある内容か分かるように、マークで示しています。

1 地域と学校の連携・協働とは

● なぜ、地域と学校の連携・協働が必要なのか

→子どもたちを取り巻く課題を解決し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくためです。

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて

なぜ今、**コミュニティ・スクール** と **地域学校協働活動** が必要なのか？

背景 時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

◆教育環境を取り巻く状況

- 児童生徒数の減少
- 子供の規範意識等への課題
- 学校が抱える課題の複雑化・困難化

◆社会の動向

- 少子高齢化の進行
- グローバル化や情報化の進展
- 地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域の教育力の低下

◆教育改革の動き

- 「社会に開かれた教育課程」の実現など

◆地方創生の動き

- 学校を核とした地域の活性化

求められるものとは…

- ◆これからの時代を生き抜く力の育成(学校だけでは得られない知識・経験・能力)
- ◆地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

学校と地域の連携・協働が必要

具体的な取組として…

コミュニティ・スクール × **地域学校協働活動**

「目標」や「ビジョン」
の共有

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現!

・文部科学省「これからの学校と地域」参照

参考

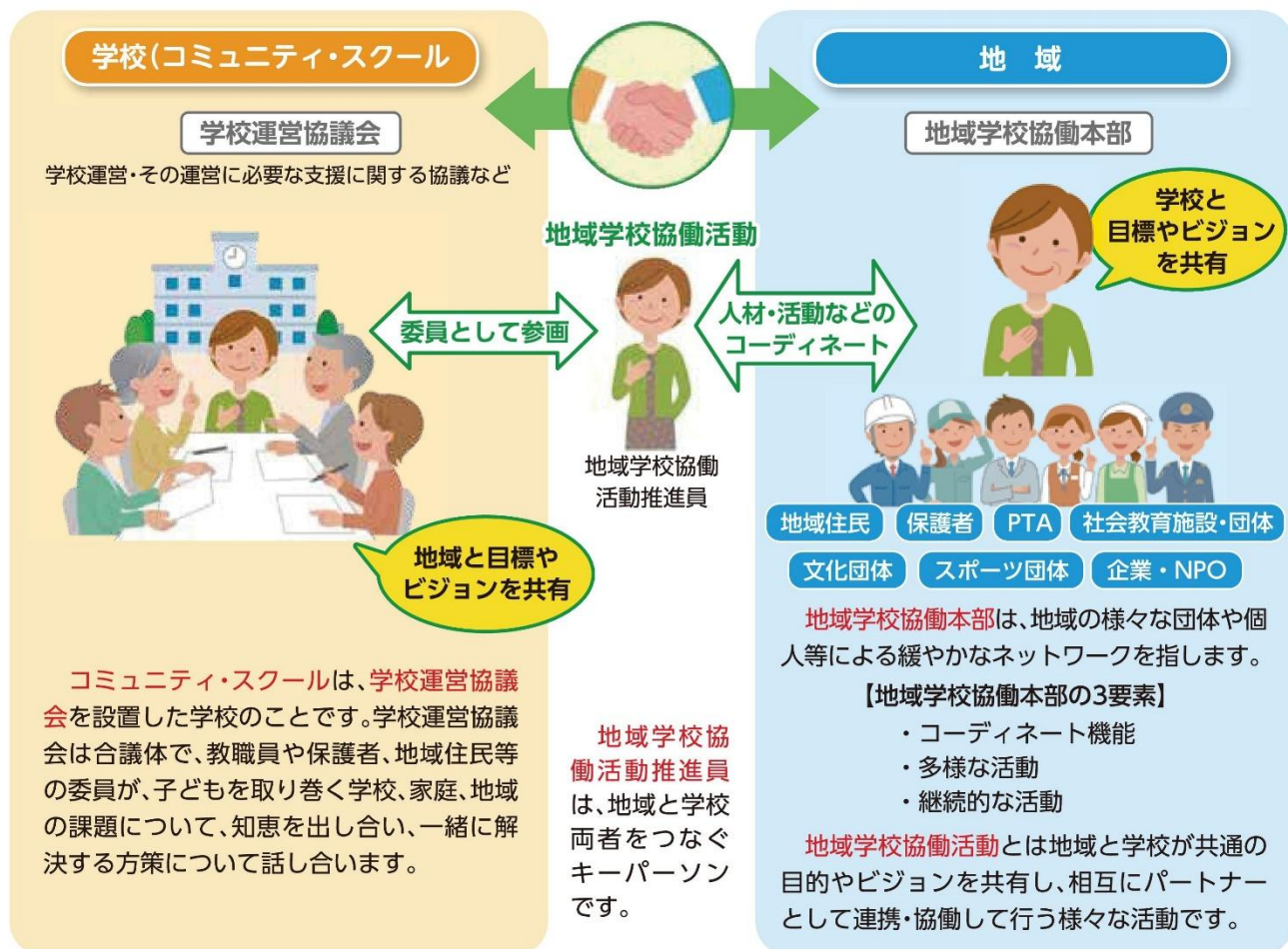
・「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ：校内研修シリーズ No.24

・地域とともにある学校づくり：校内研修シリーズ No.136



● 地域と学校の連携・協働を推進する仕組みとは

→推進する仕組みとして、**コミュニティ・スクール**（学校運営協議会を設置した学校）と**地域学校協働活動**があります。



学校と地域が「目標」や「ビジョン」を共有し、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」を一体的に進めていくことが大切です。

このことを「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」と言います。

コラム

今までの学校と地域との関係と違うの？

「責任と役割を分担し、共通の目的やビジョンを達成することを目指しています。」

これまで、地域と学校はお互いに協力や支援を行ってきました。この場合は、学校や地域のどちらかが依頼し、もう一方が実行するというタテの関係です。この中では、お互いの目的や課題は把握していない場合が多くありました。

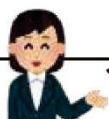
今後は、そこから、更に一步を踏み出し、まずは対等な立場で学校も含め地域全体でどのような子どもたちを育てるのか、学校教育によって何を実現していくのかという目標やビジョンを熟議を重ねながら共有していきます。（熟議についてはP20を参照）

その上で、子どもを取り巻く課題を協議し、解決に向けた役割分担をするなど、より踏み込んだ取組が求められています。

2 地域と学校の連携・協働のステージ (岡山県教育委員会作成)

地域と学校の連携・協働を進めていくためには、地域と学校がそれぞれ現在どのような状態なのかを把握する必要があります。この表を目安に現在の状態を把握し、地域・学校の双方に適切な方策を実施してください。

協働 ↑ 学校支援	状 態	地域の状態	学校の状態
	ステージ 4 共有した目標・ビジョンに向かって、 PDCAサイクル を回して持続可能な取組となっている。 	○学校とともに活動の振り返りや見直しを行っている。 ○地域住民から子どもを取り巻く課題の解決に必要な活動を提案して実行に移すなど、継続的かつ主体的な活動が行われている。	○地域とともに活動の振り返りや見直しを行っている。 ○子ども、保護者、地域住民と共有した目標・ビジョンの実現に向けた活動を継続的に行い、教育課程における学びの充実につながっている。
	ステージ 3 活動に関わる関係者が熟議を通して、 目標・ビジョンを共有 して取組の計画を立て、活動を実施している。 	○活動に参加する地域住民等が、熟議を通して目標・ビジョンを共有し、計画段階から参加したり、主体的に活動したりしている。	○学運協等で、育てたい子ども像などの目標・ビジョンの実現に向けて、熟議が行われている。 ○地域人材(地元企業を含む)や地域資源を活用した教育活動について熟議が行われ、取り組んでいる。
	ステージ 2 地域と学校が、 連携・協働する仕組み がある。 	○推進員が委嘱されており、地域学校協働本部が整備されている。 ○学校のニーズに応じた取組を、地域人材(地元企業を含む)や地域資源を活用して行っている。 ○推進員が地域の人材(地元企業を含む)等のコーディネートを行っている。	○多様な立場の地域住民(推進員等)の参画を得て、学運協を設置している。 ○推進員等に地域人材(地元企業を含む)の協力や地域資源の活用を要請している。
	ステージ 1 地域が 学校を支援 する取組が行われている。 	○地域住民が登下校の見守りや読み聞かせ、授業のグスターティーチャー等で学校に協力している。	○地域住民が参加したり、地域資源を活用したりした教育活動を行っている。 ○教育活動ごとに地域人材を探し、協力を要請している。



次のページで、ステージを確認してみましょう！

ステージアップのポイント

	地 域	学 校	関連 ページ
ステージ 4  ステージ 3	☐ 地域学校協働活動や前年度の取組の改善点について話し合う。 ☐ 推進員等を中心に、新しい仲間を増やす仕掛けや、オープンな場をつくる。(拡大熟議等) ☐ 活動内容の向上や協働に向けた意識を高めるため、研修会や視察を実施する。	☐ 教育活動や前年度の取組の改善点について話し合う。 ☐ 多様な意見を反映させる機会や仕組みをつくる。 ☐ 学校・家庭・地域それぞれの強みを生かした役割分担を明確にする。 ☐ 管理職や教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制をつくる。	P16 } P19
ステージ 3  ステージ 2	☐ 推進員が学運協委員として参画する。 ☐ 学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像などの目標・ビジョンを地域住民等が熟議を通して共有する場をつくる。 ☐ 地域住民等が活動の計画段階から参加する。 ☐ 推進員が学校と定期的に学校のニーズや地域の情報を学校・地域間で共有する。	☐ 子どもや学校の実態を学運協委員の中で共有する。 ☐ 学校・家庭・地域全体で育てたい子ども像などの目標・ビジョンを設定する。 ☐ 目標・ビジョンの実現に向けた熟議を行う。 ☐ 推進員と教育活動について定期的に情報交換する。	P12 } P15
ステージ 2  ステージ 1	☐ 推進員を委嘱する。 ☐ 推進員に、職務や地域学校協働活動、CSに関する理解促進のための取組を行う。 ☐ 推進員が地域人材や地域資源を理解し、学校に紹介できる仕組み(ボランティア募集、人材バンク、公民館との連携等)をつくる。 ☐ 地域学校協働活動やCSの目的、仕組みについて、保護者や地域住民への周知を行う。	☐ 学運協を設置する。 ☐ 管理職のCSや地域学校協働活動に関する理解促進のための取組を行う。 ☐ 教職員のCSや地域学校協働活動に関する理解促進のための取組を行う。 ☐ 保護者や地域住民等に向けたCSや地域学校協働活動の目的の周知を行う。	P8 } P11

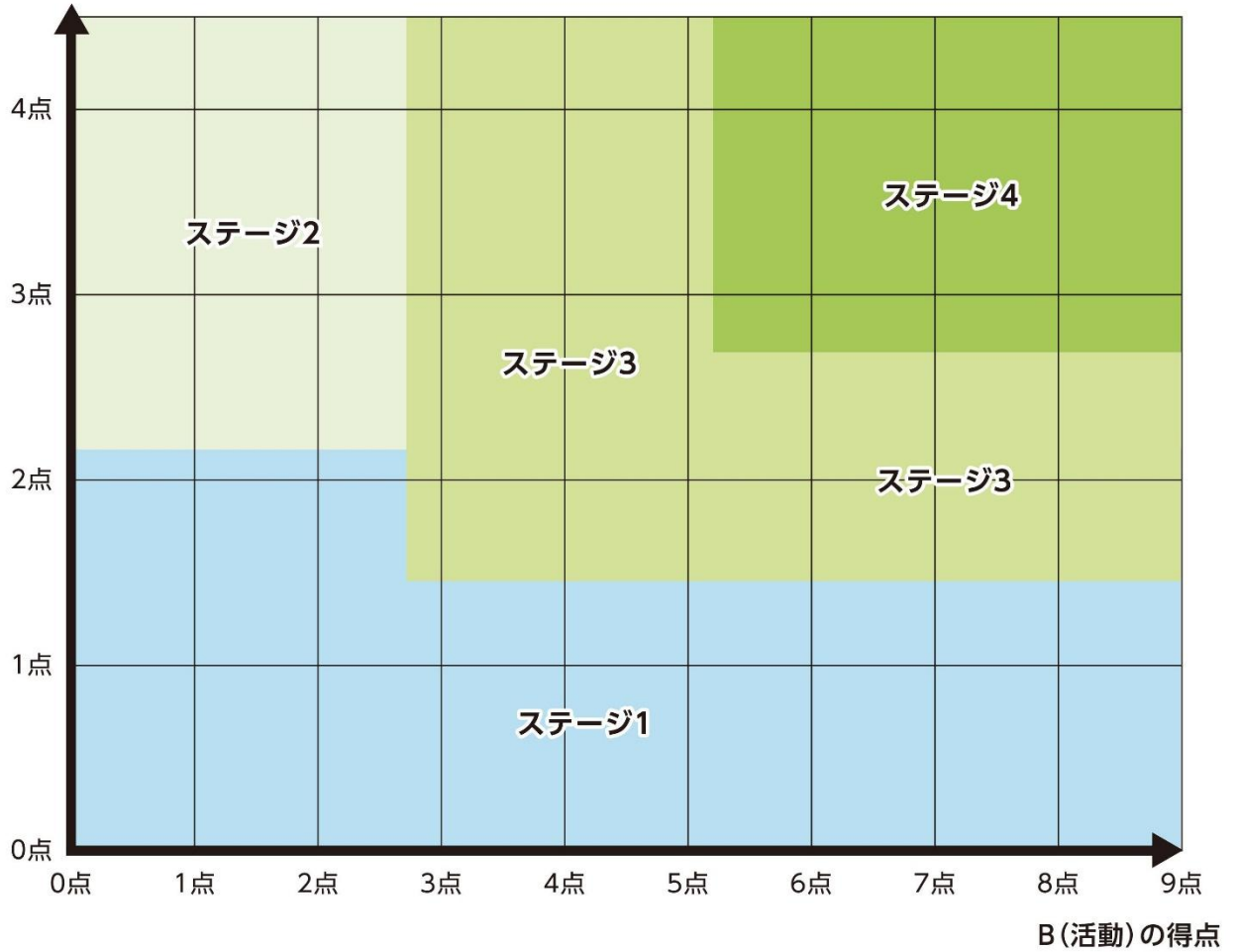
3 地域と学校の連携・協働チェックシート（岡山県教育委員会作成）

まずは自分の関係する地域や学校の連携・協働の状態がどうか、チェックをしてみましょう。Aの得点を縦軸、Bの得点を横軸にして、自分の関係する地域や学校のステージを確認しましょう。

領 域	チェック項目		点数	合計
A 体 制	1	学運協が設置されている。また、推進員が委嘱され、学運協の委員となっている。 (0…どれか一つでもできていない、1…全てできている)		
	2	3つの条件(①コーディネート機能 ②多様な活動 ③継続的な活動)を満たし、地域学校協働本部が整備されている。 (0…整備されていない、1…整備されている)		
	3	学校の教育活動で地域人材を活用する際に、学校ではなく、推進員が地域人材を探し、連絡・調整を行っている。 (0…学校が行っている、1…推進員が行っている)		
	4	学運協では、学校の提案事項を承認するだけでなく、子どもを取り巻く課題解決のために、建設的で活発な議論を行っている。 (0…行っていない、1…行っている)		
B 活 動	1	登下校の見守りや読み聞かせ、授業のゲストティーチャーなど、学校の教育活動に地域住民が協力している。 (0…協力していない、1…協力している)		
	2	保護者や地域住民、教職員を対象に、CSや地域学校協働活動の目的や意義を説明している。 (0…説明していない、1…説明している)		
	3	保護者や地域住民を集めて、ワークショップ等を実施し、育てたい子ども像などの目標・ビジョンを共有している。 (0…実施していない、1…実施している)		
	4	共有した目標・ビジョンの実現に向けて、どのような取組を行うか、学運協の中で議論している。 (0…議論していない、1…議論している)		
	5	共有した目標・ビジョンの実現に向けて、取組を実施している。 (0…実施していない、1…実施している)		
	6	学運協の中で、子どもや学校の実態を共有している。 (0…共有していない、1…共有している)		
	7	地域住民が活動の計画段階から参加している。 (0…参加していない、1…参加している)		
	8	学運協等の中で、教職員と地域住民が地域学校協働活動の振り返りや見直しを行っている。 (0…行っていない、1…行っている)		
	9	学運協の中での議論に基づき、学校外で、子どもを取り巻く課題の解決に向けた活動が地域住民によって行われている。 (0…行われていない、1…行われている)		

地域と学校の連携・協働のチャート図

A(体制)の得点



ステージが確定したら、P4・P5に戻り、ステージアップのポイントを
確認して、関連ページへ移動しましょう。

4 (1) 地域 ステージ1→2へのポイント

● 推進員を委嘱する

行政



■ 地域学校協働活動推進員

地域と学校との連絡調整や地域住民へ学校との協働活動と呼びかけるなど、地域とも学校とも良好な関係をつくり、信頼関係を築きながら活動を進める、コーディネーターとしての役割を担います。

地域学校協働活動とCSの一体的な推進を図るためには、推進員を委嘱すると同時に、学運協委員にも任命することが効果的です。

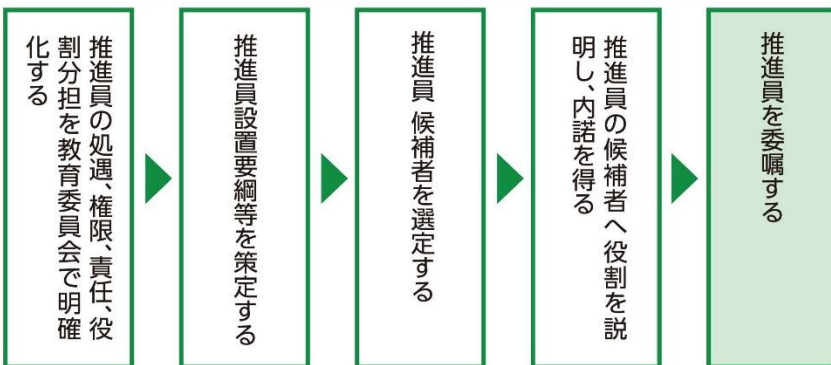
■ 推進員の主な役割

地域や学校の
実情に応じた
地域学校協働
活動の企画・立案

学校や地域住民、
企業・団体等の
関係者との連絡・
調整

地域ボランティア
の募集・確保

推進員委嘱までの流れ例



委嘱の際に、委嘱状を教育長から直接手渡すようにしている市町村や研修をセットで行う市町村もあります。



● 推進員に、職務や地域学校協働活動、CSに関する理解促進のための取組を行う

行政

推進員の職務や地域学校協働活動、CSに関する理解促進のため、研修の場をつくるようにしましょう。また、推進員同士の交流の場をつくり、悩みを相談できる体制づくりを進めましょう。

理解促進のための取組例

市町村教育委員会主催の研修・
情報交換会の実施



中学校区単位等での推進員の
情報交換会の実施



岡山県教育委員会や文部科学省でも、地域と学校の連携・協働に関する研修を実施しています。これらの研修を活用して、理解促進を図ることもできます。ぜひ積極的に参加してください。



～地域と学校が連携・協働する仕組みの構築～

- 推進員が地域人材や地域資源を理解し、学校に紹介できる仕組み（ボランティア募集、人材バンク、公民館との連携等）をつくる

地域

学校

行政

① 推進員と教職員や公民館職員・地域の関係者との顔合わせ

まずは、市町村教育委員会が橋渡しとなり、教職員や公民館職員、地域の関係者などへ推進員を紹介しましょう。教職員に紹介する方法として、年度初めの職員会議等で紹介する等の方法があります。



② 推進員が地域人材や地域資源を理解する

推進員が地域人材や地域資源を理解することが大切です。地域にどんな人材や資源があるのかを把握する方法はいろいろあります。

地域住民やPTAなどにボランティアを募集する

学校や公民館と連携し、ボランティアを募集しましょう。募集の際に得意なこと等も尋ねておくと、活動の依頼がしやすくなります。

公民館と連携する

公民館職員は地域人材や地域資源をよく知っています。公民館の講座に來ている方や講師の方などに協力してもらうことができると、活動の幅が広がります。

人材バンクを活用する

市町村によっては、地域人材を人材バンクという形で整理しているところもあります。



岡山県教育委員会では、「夢育パートナーズ」という人材バンク（地域人材の登録制度）を整備しており、様々な団体や企業を紹介し、多様な活動を行う仕組みを整えています。ぜひご活用ください。（URLはP33の参考文献等一覧をご覧ください。）



- 地域学校協働活動やCSの目的や仕組みについて、保護者や地域住民への周知を行う

地域

学校

行政

地域と学校の連携・協働を推進していくためには、保護者や地域住民の協力が欠かせません。

これまでも地域と学校の協力が行われていたところでは、「また新しいことが始まるのか」「負担が増えるのか」などと思われる方もいるので、丁寧な説明が重要です。

地域の中で保護者や地域住民等、様々な立場の方と、CSや地域学校協働活動に関することなどについて、情報収集、情報共有をしましょう。

周知の方法の例

参観日や学校公開日、PTA総会等を活用して説明する

市町村発行の広報誌や回覧板を活用する

CS便りやボランティア便りを発行する



井原市立県主小学校の学校支援ボランティアだより→



4 (2) 学校 ステージ1→2へのポイント

● 管理職のCSや地域学校協働活動に関する理解促進のための取組を行う

行政

地域と学校の連携・協働を進める上でまず大切になるのが、管理職の理解です。

市町村教育委員会は、域内の管理職に対してCSや地域学校協働活動に関する理解が進むように情報提供や研修会等を実施します。

また、文部科学省や岡山県教育委員会が主催する研修への参加を促したり、教育事務所に相談したりすることも有効です。ぜひ積極にご活用ください。

管理職の理解促進を目的とした取組例

市町村教育委員会主催の 管理職研修会



岡山県教育委員会主催の研修会



参加者の声

- ・人材の確保、推進員の重要性を改めて感じた。
- ・たくさんの実践事例を知り大変有意義だった。



岡山県教育委員会では、アドバイザーを派遣し、市町村教育委員会への伴走支援を行う事業も実施しています。ぜひ御活用ください。



● 教職員のCSや地域学校協働活動に関する理解促進のための取組を行う

学校

行政

地域と学校の連携・協働を進める上で次に大切になるのが、教職員の理解です。

管理職や地域連携担当教職員を中心として校内研修をしたり、市町村や岡山県教育委員会が主催する研修会に参加したりして、CSや地域学校協働活動の目的を正しく理解することが重要です。

教職員の理解促進を目的とした取組例

市町村教育委員会主催の 研修会



県教育委員会主催の研修会



校内研修



岡山県教育委員会でも、県総合教育センターや、教育事務所などで、研修会を実施しておりますので、ぜひ御参加ください。



～地域と学校が連携・協働する仕組みの構築～

● 学運協を設置する(学校とともに行動していける学運協委員を任命する)

学校

行政

学運協は、教育委員会によって学校に設置され、その委員は、学校や地域の実情に合わせ、教育委員会が任命することとなっています。学運協委員は、「(非常勤)特別職の地方公務員」として、一定の権限を有し、学校と対等な立場で協議を行うことができます。また、合議体として公式に学校や教育委員会に意見を述べるすることができます。

多様な立場の地域住民を学運協委員とすることや、意見を述べるだけでなく、すぐに活動へ結びつけてくださる方を委員とすることが大切となります。また、推進員を学運協委員とすることで、地域学校協働活動との一体的な推進を図ることができます。



学校運営協議会設置までの教育委員会が行う準備例

教育委員会規則の準備

- 学校運営の基本方針の承認に関すること(項目等)
- 委員の任命に関すること(人数、対象者、任期等)
- 守秘義務等に関すること
- 対象学校職員の任用の意見に関すること

委員報酬の準備

- 報酬に係る条例、規則の整備
- 予算措置
- 議会の承認
- 支払等に関する準備

委員の任命の準備

- 校長からの意見聴取
- 委員の選定
- 任命の様式等の準備
- 任命の時期と方法検討

説明会・研修等の実施

- 学校の管理職・教職員に向けての制度の周知と研修
- 学運協委員に向けての制度の周知と研修
- 保護者・地域住民・既存団体等に向けての制度の周知
- 総合教育会議等を通じた首長部局への周知と連携協力体制の構築

● 保護者や地域住民等に向けたCSや地域学校協働活動の目的の周知を行う

地域

学校

行政

保護者や地域住民に対し、いろいろな場を使って、CSや地域学校協働活動の目的や仕組みなどを繰り返し伝えることが大切です。

子どもたちや保護者、地域にとってのメリットを繰り返し伝え、理解を図りましょう。

周知の方法の例

参観日や学校公開日
等を活用して説明する

学校だより等を
活用する



子どもたちにとっては学びや体験活動が充実したり、地域の担い手としての自覚が高まったりするメリットがあること、地域にとっては、学校と地域が連携・協働することで、地域の課題解決につながるメリットがあることなどを伝えましょう。

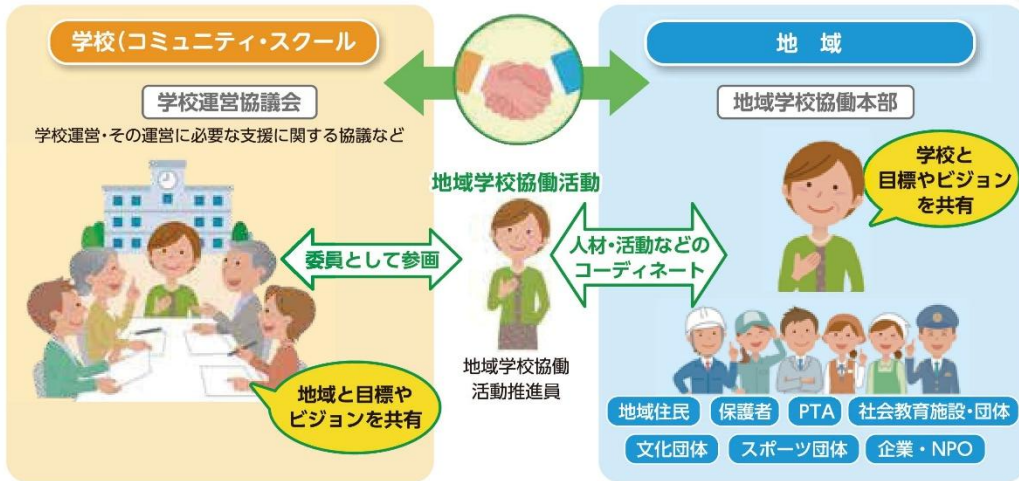


浅口市立寄島小学校の
学校だより→

5 (1) 地域 ステージ2→3へのポイント

● 推進員が学運協委員として参画する

地域 学校 行政



地域学校協働本部と学運協が円滑に連携し、両者の機能を高めていくためには、推進員が学運協委員となることが求められます。

教職員とは異なった「地域住民としての視点」を大切にしましょう。



推進員が学運協委員として参画することで…

学運協での協議内容と地域学校協働活動がつながることで、効果的に地域学校協働活動を行うことができる。

効果的に地域学校協働活動を行うことにより、子どもたちの教育活動の充実や活性化が期待できる。

● 学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像などの目標・ビジョンを共有する熟議の場をつくる

地域 学校 行政

地域学校協働活動では、ステージ2までの「地域が学校や子どもたちを応援・支援する」という一方の関係から、対等な立場で「連携・協働」という双方向の関係になることが求められています。

その活動を進めるためには、まず地域、保護者と学校が顔を合わせ、互いを理解し合い、協働への意識を強くしていくことが必要です。そのために有効なのが「**熟議**」です。

学校と地域の人々(保護者、地域住民等)が学校や地域の課題を熟議によって共有し、共通の目標・ビジョンを持って一体となって地域の子どもの成長を育んでいくことは、子どもの豊かな育ちを確保するとともに、地域の絆を深め、地域づくりの担い手を育てていくことにもつながります。

熟 議

多くの当事者が「**熟慮**」と「**議論**」によって問題の解決を目指す対話のこと。

効果

- ・より主体的に関わろうという意欲が生まれます。
- ・メンバー同士の信頼関係が築かれます。
- ・様々な立場の方が同じ方向を向いて活動することができます。

熟議の具体的な方法については、P20をご覧ください。



目標・ビジョンを共有する熟議の例

場の設定

- ・学運協の場
- ・学校の校内研修の場
- ・市町村教育委員会が行う研修会、連絡会等の場
- ・地域の会合の場等



参加者

- ・学運協委員
- ・地域住民
- ・教職員
- ・児童生徒
- ・保護者・企業、NPO団体等

場の設定と参加者によって、様々な形態の熟議を行うことができます。熟議の場を設定すると同時に、**何のために熟議を行うのかという目的をしっかり持つ**ことが大切です。



～目標・ビジョンを共有し、計画・実施する～

● 地域住民等が活動の計画段階から参加する

地域

学校

行政

学運協で熟議等を通して課題や目標等を共有し、実際の活動を進めるに当たり、関係者がその活動の計画段階から参加することで、地域と学校が対等の立場で協力して取り組むことができます。

これまで



最近、児童が登下校の時に危うく交通事故にあいそうな事案が続きました。児童の安全な登下校のため、見守りをお願いできませんか。



じゃあ、ボランティアとして協力しましょう。

受け身の姿勢

地域の一部の人だけが参加

これから(学運協で…)

校長先生



最近、児童が登下校の時に危うく交通事故にあいそうな事案が続きました。児童の安全な登下校が課題となっています。委員の皆さんの御意見を伺いたいです。



児童に交通安全について指導することも必要ですが、それだけでは解決できそうにないですね。



登下校の時間帯の子どもだけでなく、地域に住んでいる人にとっても危険な場所ですね。



どんなことができるかを関係者が集まって、一緒に考えるのはどうでしょうか。

より多様な主体の参画

当事者意識の醸成

● 推進員と学校が、定期的に学校のニーズや地域の情報を共有する

地域

学校

学校のニーズや地域の情報を共有するために、普段から推進員と学校がコミュニケーションをとることが重要です。岡山県では平成24年度から県内すべての公立学校において、**地域連携担当**を校務分掌に位置付けています。学校側の窓口である**地域連携担当教職員**との密接な連携を通じて、地域学校協働活動をより効果的に進めることができます。

定期的に学校のニーズや地域の情報を共有する取組例

学運協に参加し、学校のニーズを聞いたり、地域の情報を共有したりする。

年度当初に、推進員と管理職、地域連携担当教職員が打ち合わせを行う。

学校内に、コミュニティルームなど地域と学校が連携・協働するための場所を設ける。

地域学校協働活動の実施後に、推進員と学校が活動の振り返りを行う。



行政担当者が同席すると、行政とも取組が共有できます。

推進員は、学校や教職員を理解して、地域と学校の関係が円滑になるよう、中立的な立場で接していきましょう。



5 (2) 学校 ステージ2→3へのポイント

● 子どもや学校の実態を学運協委員の中で共有する

学校

具体的なデータや事例を提示することで、学校の課題を深く理解し、多角的な視点から解決策を検討することができます。

また、意見交換を通して、学校への理解を深め、信頼関係を築くことができます。これにより、学校と地域が一体となり、子どもたちの成長を支える教育環境を創出することができます。

子どもや学校の実態を共有するための取組例

具体的なデータの提示

- ・ 学力調査の結果、児童生徒アンケートの結果、学校行事の参加状況など、具体的なデータを示すことで、委員の理解を深めることができます。
- ・ 可視化ツール(グラフ、図など)を活用することで、より分かりやすく伝えることができます。

学校の様子を実際に 見てもらう

- ・ 学校公開日や、学運協の前の時間を使い、委員に授業を見学したり、子どもたちと直接触れ合ったりする機会を設けることで、学校の実態を肌で感じてもらいます。

学校や子どもたちの課題等を学校だけで抱え込んでしまうのではなく、保護者や地域住民等、多様な関係者とともに「**一つのテーブルにつくこと**」が大切です。そこで新しいアイデアや考え方が生まれ、今後の方針を決めていくたくさんのヒントが得られます。



● 学校・家庭・地域全体で育てたい子ども像などの目標・ビジョンを設定する

学校

地域

行政

具体的な子ども像を共有することで、教職員、保護者、地域住民が共通の目標をもって取り組むことができます。さらに、地域全体で子どもたちを育てという一体感が生まれ、学校と地域との連携が深まります。

育てたい子ども像などの目標・ビジョンを設定するための熟議を行うことが大切です。

熟 議

多くの当事者が「**熟慮**」と「**議論**」によって問題の解決を目指す対話のこと。

熟議の具体的な方法については、P20をご覧ください。



コラム

共有が十分でないとき…

情報や課題、目標・ビジョンの共有が十分でないと、一方が他方に「お願い」をし、それに対して「支援する」という、貸し借りのような関係になってしまったり、思いがすれちがったりすることがあります。



～目標・ビジョンを共有し、計画・実施する～

● 目標・ビジョンの実現に向けた熟議を行う

地域

学校

育てたい子ども像などの目標・ビジョンの設定・共有ができれば、目標・ビジョンの実現に向けてどのようなことを行っていくのかについて熟議を行います。熟議を通して、共通の理解が深まり、一体感が生まれることで、目標達成へのモチベーションを高めることができます。

さらに、それぞれの役割を明確にし、具体的な行動計画を策定することで、目標実現に向けてより効果的に取り組むことができます。

熟議は、単なる意見交換ではなく、より良い未来を共創するための重要なプロセスです。



目標・ビジョンの実現に向けた熟議を行う際のポイント

他人の意見を否定しない

多様な視点からのアイデアが出されることが、教員や保護者、地域住民といった様々な立場の人々が協力することの最大の良さです。そのため、どのような意見であっても、否定したり反論したりせず、皆で受け入れることが大切です。

やることと同時にやめることも考える

やることばかり増やしてしまうと持続的に活動できないため、育てたい子ども像に基づいてやめたり、規模を縮小したり統合したりするという判断も必要です。

専門家の活用

実際にCSの立ち上げに携った経験者や地域学校協働活動の実践者等からアドバイスを聞き、より効果的な取組を考えます。

● 推進員と教育活動について定期的に情報交換する

学校

推進員の方々は、地域の実情を深く理解しており、学校と地域との橋渡し役として重要な役割を果たしています。また、推進員の方々からの貴重な意見を聞くことで、学校の教育活動の改善にもつながります。

推進員と教育活動について定期的に情報交換する取組例

定例会の実施

推進員と定期的に会合を行い、教育活動に関する情報を共有します。

学運協の中で学校の教育活動や地域の情報を共有する

学運協の中で、学校の教育活動や学校の課題について、共有します。加えて、推進員から地域の情報を共有してもらう時間を設けます。

学校内に、コミュニティルームなど地域と学校が連携・協働するための場所を設ける

学校内に、コミュニティルームなど地域と学校が連携・協働するための場所を設けることで、気軽に学校に来てもらいやすく、情報交換も効率的に行うことができます。

まずは、年度初めの職員会議などで、推進員を教職員全体に紹介し、教職員との関係性をつくっていくことが大切です。推進員と教職員が気軽に相談し合える関係づくりが大切です。



6 (1) 地域 ステージ3→4へのポイント

● 地域学校協働活動や前年度の取組の改善点について話し合う

地域

学校

行政

地域学校協働活動を振り返って、成果や課題、困りごとをみんなで話し合い、共有しましょう。多様な人の知恵や力を、次なる実践に結び付けていくことが重要です。

地域学校協働活動は、地域の教育力の充実や地域活性化・地域づくりにもつながることが期待されています。教育委員会は、計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Action)というPDCAサイクルを構築し、長期的な視点に立った財源確保などにより持続可能な地域学校協働活動の実施を推進することが重要です。

振り返りの例・ポイント

KPT法

Keep

よかったこと・成果がでて、継続すべきこと

Try

改善していくために、やってみたいこと・次に取り組むこと

Problem

問題だと思うこと・改善すべき課題

- ①K、P、Tの視点で活動や取組を振り返り、個人で付せん紙に記入します。
- ②K→P→Tの順番で、意見を発表しながら付せん紙を模造紙に貼り出します。
- ③集まった意見を基に対話しましょう。共有するだけでなく、その裏にある考えや気づき、意味を問い合しましょう。「その活動や出来事にどのような意味があったのか。」を明らかにすることで、次の活動がより発展していきます。
- ④他のグループを自由に見て回り、「これはいい!」「やってみたい!」という内容にいいねシールを貼っていきます。



①個人で付せん紙に記入している場面



②意見を発表しながら付せん紙を模造紙へ貼りだしている場面



③集まった意見を基に対話をしている場面



④他のグループの意見にいいねシールを貼っている場面

～PDCAサイクルを回し、持続可能な取組にする～

● 推進員等を中心に、新しい仲間を増やす仕掛けや、オープンな場をつくる

地域

学校

行政

関係者が固定化しないよう、仲間を誘い込む仕掛けやオープンな場をつくり続けることが大切です。子どもたちにも出会わせたい本気の大人を巻き込んでいくとよいでしょう。

また、地域の広報誌やSNS等を活用して、活動実践を紹介し、成果や課題について広く情報発信していくことも大切です。「何のために発信をするのか」を明確にし、発信する相手と方法を明確にすることが、有効な情報発信の一步となります。

オープンな場づくりの例

お茶飲み会

会議の場ではなく、リラックスした空間では本音が出やすいと言われています。お茶を飲みながら、近況や悩みを話すことで、お互いの困りごとを共有でき、小さな助け合いが生まれます。

熟議

学運協として集う場の前後に、委員以外の教職員、地域の方、保護者、児童、生徒も交えた「拡大」熟議の時間を設けることをオススメします。多様な人の考えや想いを共有しながら、ビジョンやアイデア、計画を見直すことで、それぞれの役割に応じた解決策や方針が洗練され、参加者の主体的な意識が高まります。

情報発信の手段の例

- ①SNS:情報を届けたい年代に合わせて使い分けると効果的です。
- ②新聞・メディア掲載:イベントごとにプレスリリースを出したり、取材してもらいやすいように関係者と繋がりを作りましょう。
- ③地域の回覧版:学校だより、CSだよりのなどの回覧や配布を行います。
- ④既存の地域の広報物、市町村広報など行政の情報発信ツールを有効活用するのも効果的です。



● 活動内容の向上や協働に向けた意識を高めるため、研修会や視察を実施する

行政

新たな仲間を交えながら、取組や協働の意義を問い直し、学び続けることが大切です。講師を招いた研修会はもちろん、県内外には、同様に奮闘する学校・地域がたくさんあります。視察という形で、お互いの活動を見学・紹介し、情報交換する機会をつくることもよいでしょう。

やってきたことや現状を踏まえて、改めて新しい仲間でも目標やビジョンを確認することにより、どんな学校・地域・家庭を目指すのか、ゴールイメージが共有でき、達成目標を明確にすることができます。

研修会や視察の取組例

先進的な取組を行っている地域の推進員を講師に招いて、研修会を行う。

全国規模のフォーラム等で発表をしているなど、先進的な取組を行っている地域を視察する。

オンラインを活用して、他の先進的な取組を行っている地域と情報交換を行う。

視察や研修会、情報交換等を行う際には、「自分たちの活動にどう活かそうか」という視点で、対話し、ポイントを見出しましょう。



6 (2) 学校 ステージ3→4へのポイント

● 教育活動や前年度の学校の取組の改善点について話し合う

学校

子どもや学校の実態を学運協委員で共有し、学校・家庭・地域全体で育てたい子ども像などの目標・ビジョンを設定したら、**具体的に目標・ビジョンに向かいPDCAサイクルを回し、持続可能な取組**にしていくことが大切です。

前年度もしくは年度当初に学校長が示した教育計画をもとに行われた教育活動を様々な視点から評価するとともに、地域としてどう関わられたか、課題に対して、学校・家庭・地域で何ができるのかを話し合います。

話し合う内容例

教育目標や方針に対する意見

カリキュラムや教育活動の内容

学校環境や施設の利用

学校・家庭・地域の状況

保護者の意見の反映

CSポートフォリオは、自校のCSの状態を自己診断し、より良いCSにしていくための気付きを得るツールとして開発されたものです。実施することにより、CSや地域連携の状況、子どもへの効果等を数値によって見ることが出来ます。PDCAサイクルを回すための手段として活用ください。

CSポートフォリオ



【参考】文部科学省「学校と地域でつくる学びと未来」CSの取組 <https://manabi-mirai.mext.go.jp/document/guideline/>

● 多様な意見を反映させる機会や仕組みをつくる

地域

学校

多くの当事者が集まって話し合われた内容や改善点は、意見として留めておくのではなく、実際に教育活動や地域学校協働活動に反映させることが大切です。

そのためには、**意図的に反映させる機会を設けたり、反映する仕組みをつくる**ことになります。その時に留意するのは、学校長や学校の教職員だけがそれを考えるのではなく、学運協委員とともに、今後持続可能な取組になる視点をもって、仕組みをつくることです。

意見を反映させるための視点

専門部会の設置

意見の分類
(多様な視点から)

優先順位の設定

進捗状況の共有

意見を反映させるための取組事例

学運協の部会組織の導入

より多くの地域住民や保護者が意思決定プロセスに参加できるよう、学運協の中に部会組織を導入している学校もあります。また、意見を反映しやすいように、オンライン上で投票できる仕組みを設け、優先順位を決めたりしている学校もあります。



浅口市立寄島学園組織図→

～PDCAサイクルを回し、持続可能な取組にする～

● 学校・家庭・地域それぞれの強みを生かした役割分担を明確にする

地域

学校

学校・地域・保護者で共有された目標・ビジョンに向かい、それぞれの強みを生かした役割分担をすることで、より効果的に連携することができます。

学校・家庭・地域の強み

学校の強み

- ・専門的な教育知識
- ・集団生活による社会性の醸成
- ・多様な学びの機会
- ・規律・ルール of 学習

家庭の強み

- ・個別ケアと愛情
- ・個別によるきめ細やかな指導
- ・価値観の共有
- ・生活習慣の育成
- ・フィードバック

地域の強み

- ・実社会とのつながり
- ・豊富な体験機会
- ・多様な価値観をもった人材
- ・社会的ネットワークの構築
- ・防災や安全のサポート

活動の役割分担例

目指す子ども像に対して、「学校の取組」「子どもの取組」「家庭での取組」「地域での取組」をまとめている学校もあります。

三鷹中央学園パワーアップアクションプラン（一部を抜粋、簡略化）

目指す 学園生像	学校での 取組	子どもの 取組	家庭での 取組	地域での 取組
すすんで 学ぶ (確かな学力)	魅力ある授業 づくり など	読書習慣 家庭学習 など	子供の学習内容 への関心 など	放課後や休業中 の学びの場 など
感謝と 思いやり (人間性)	異学年交流 あいさつ指導 など	家庭で報告 友達に声掛け など	家庭での対話 感謝の声掛け など	体験・交流の 機会充実 子供を褒める 場をつくる など
たくましい 心と体 (心身の健康)	集団生活指導 運動・部活動 食育の推進 など	時間を守る 規則的な 生活習慣 など	規則的な生活の 習慣づけ ゲームやスマホの利 用ルール など	運動する機会 の充実 など
地域・社会 貢献 (地域への愛着)	防災訓練 地域と関わる学習 など	ボランティア 地域行事や防災 訓練への参加 など	学校・地域行事 への参加 地域の防災訓練 など	登下校の見守り など安全安心な 環境づくり など

※三鷹中央学園パワーアップアクションプラン

● 管理職や教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制をつくる

地域

学校

地域と学校の連携・協働が可能となった学校では、多様な意見が出せる場があり、その出された意見や協議した内容を反映させる機会や仕組みが整っています。

そして、学校・家庭・地域がそれぞれの強みを生かして役割分担し、共有した目標・ビジョンに向けてPDCAを回して持続可能な取組にしていくことが大切です。

持続可能な活動にしてい くために必要なこと

共通理解とビジョンの共有

活動記録等、引き継ぎ資料の作成

研修機会の確保→教職員全体の理解促進

学校全体で関わる体制の構築

地域連携担当の複数制

他校との情報交換会



7 熟議を取り入れよう!

● 熟議って何?

熟議とは、**多くの当事者による「熟慮」(よく考え)と「議論」(論じる)を重ねながら、課題解決を目指す対話**のことで、活発な議論により、的確に多くの人の意見を反映することができます。

具体的なプロセス

- ① **多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)**が集まって、
- ② 課題やビジョンについて「熟慮」し、「議論」することにより、
- ③ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④ それぞれ役割に応じた解決策や方針が洗練され、
- ⑤ それぞれが納得して**自分の役割を果たすようになる。**

子どもを取り巻く課題等を学校だけが抱え込むのではなく、多くの当事者とともに対話することです。

そこで、様々なアイデアや考えが生まれ、今後の方針を決めていくたくさんのヒントが得られます。

● なぜ熟議【ワークショップ形式(参加型学習)】が良いの?

模造紙や付せん紙など道具を使うことだけが「熟議」ではありませんが、ワークショップ形式(参加型学習)を取り入れることで、次のような効果が期待できます。

- ・ 傍観者をつくらず、**参加者が主体的に発言する**ようになり、**当事者意識が高まります。**
- ・ 特定の人の意見に強く流されず、子どもから高齢者まで**平等な立場で参加**することで、新たな気づきが生まれます。
- ・ 付せん紙やマーカー等を利用することで、議論の足跡が残り**話し合いのプロセスを可視化**できます。
- ・ 教職員と、地域や保護者との**信頼関係の構築**につながります。
- ・ 全教職員が参加することで、学運協は管理職だけが関わるものではないという**教職員の参画意識の向上**につながります。
- ・ 子どもが参加することで、社会性やコミュニケーション能力等の向上とともに、**地域社会の一員としての帰属意識を高めます。**

例 熟議のテーマ あいさつ日本一を目指すために! 学校・家庭・地域ができることは?

教職員

あいさつ運動のときは、よく声がでているのですが、地域や家庭ではどうでしょうか?

保護者

まず、大人から積極的にあいさつをしないと! 大人がまずお手本に!

児童生徒

このキーワードを生徒会でも議題にしてみたいです!

地域住民

地域にあいさつロードを設定し、地域ぐるみで取り組めないでしょうか?



児童生徒

あいさつ運動って、朝だけのイメージがあるのですが、昼や夕方、夜のあいさつ運動はどうですか?

できることから 少しずつ!

各グループの「可視化された話し合いのプロセス」を、学運協でさらに熟議をし、焦点化します。

学校・家庭・地域での役割分担を考えたり、一緒にできることを考えたりします。

焦点化された内容を計画した上で、できることから取り組んでいきます。

● 熟議の基本的な流れ

展開例 (90分)

グループは4～5人で、様々な立場の人が混ざるようにする。

1 開会(オリエンテーション)	5分	挨拶、熟議開催の経緯
2 確認事項 ・テーマに関わる資料の共有 ・ルールの確認 ・自己紹介等	10分	・テーマについての背景を共有する。 ・ルール(3つの約束)の確認をする。※資料1参照 ・自己紹介、グループ内の役割分担(進行、発表等)をする
3 アクティビティ(活動)①	20分	テーマについて意見(思い)をたくさん出す。(付せん紙を利用)
4 アクティビティ(活動)②	30分	アクティビティ①で出た意見について、方向性を話し合う。(個々のアイデア出しや、グループのアイデア出し)
5 シェアリング(全体共有)① ギャラリーウォーク	10分	他のグループを自由に見て回り(ギャラリーウォーク)、納得感のあることに「いいねシール●」を貼る。
6 シェアリング②	10分	全体発表をする。
7 閉会(感想、挨拶等)	5分	今後へ向けて、熟議のキーワード等を焦点化したり、実働化するための話し合いの場をどこでもつか提案したりする。(学運協、部会等)

学運協の中でも、協議項目を絞り、熟議(ワークショップ形式)を取り入れることで、委員の方々が積極的に参加し多様な意見が出たり、当事者意識の向上につながったりします。



(資料1)

楽しくディスカッションするために！

3つの約束

- (1)参加者は、みんな平等です。
- (2)互いの意見や感じ方を尊重しましょう。
→ 他者を批判しない。
- (3)参加者の秘密を守りましょう。

自由な発想で、たくさん意見を出しましょう！

● 熟議のテーマ例

- ・子どもたちがどう育ってほしいか
- ・学校・家庭・地域の課題を考えよう
- ・あいさつ日本一を目指すために！
- ・子どもの成長へ向け、学校がやるべきこと、地域ができること、一緒にできること
- ・校則を見直そう！
- ・地域とともにある学校行事を考えよう！
- ・SNSの有効活用について
- ・若者の定着へ向けて一緒にできることは何か
- ・〇〇町の弱みと強みを考えよう
- ・5年後の地域・学校はどうあってほしい?!
- ・子どもたちの「学力」を向上させるために
- ・地域との連携・協働を進めることで、学校・地域・子どもがどう変わるか。「こうなったらいいな」について考えよう！
- ・「いじめ」を撲滅するには
- ・学校統合後の子ども真ん中の地域の姿を考えよう！
- ・地域における子どもの安心安全について考えよう！
- ・子どもが地域で活躍するためにできること

テーマ 子どもたちがどう育ってほしいか

対象 学運協委員、保護者、地域住民、教職員、推進員、(児童生徒) 時間 80分

準備するもの □模造紙 □付せん紙(2色) □いいねシール● □マーカーセット

ねらい

多様な立場の方々と、育てたい子どもの姿(児童生徒の場合は、どういう大人になりたいか)について共有し、その姿に向けてできることについて考えることができる。

自己紹介、役割分担【10分】

自己紹介をして、役割を決める。

- ①自己紹介(所属、名前、一言[子どものこと、地域自慢など])
- ②役割分担(例:進行係、記録係、発表係、その他の方は盛り上げ係)

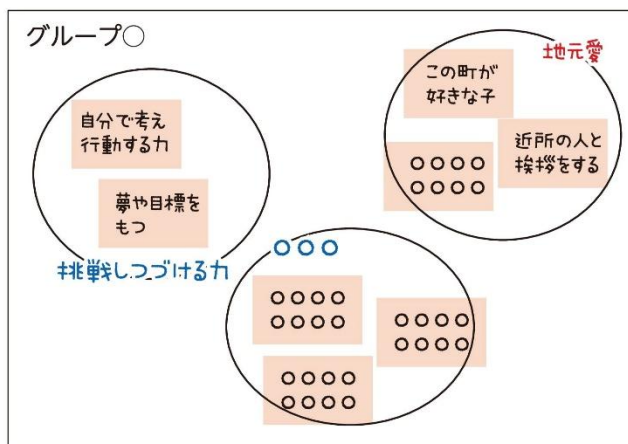
アクティビティ①【20分】

子どもたちがどんな人に育ってほしいかを共有する。

- ①個人で思いつくことを、赤色付せん紙1枚に一つ書く。
- ②グループ内で共有する。(共有の際は、一斉に貼り出すのではなく、一人が出した意見に対して同じ、もしくは関連があるものには、そのタイミングで共有し近くに貼る。同じ仲間をグループ化し、題をつける)
- ③他人の意見を聞いて思いついたら赤色付せん紙に書き、意見交換する。

CHECK!

児童生徒が参加する場合は「どんな人に育ちたいか」について考える。



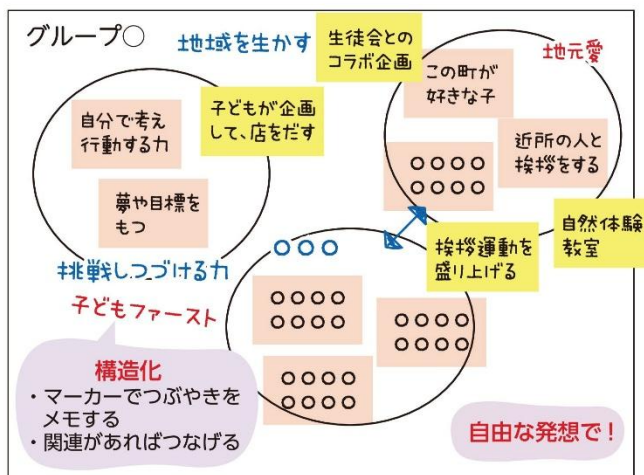
アクティビティ②【30分】

育てたい子どもの姿の実現に向け、できることを考える。

- ①アクティビティ①でグループ化し、題をつけた育てたい子どもの姿に対して、学校・家庭・地域で何ができるか。一緒にできることはないか、黄色付せん紙1枚に一つ書く。
- ②付せん紙に書き終えたグループから、説明を加えながら関係の子どもの姿のところへ貼り、共有する。

CHECK!

熟議での、説明やつぶやきのキーワードなどを模造紙へ直接書き込んだり、関連する子どもの姿やキーワードを矢印等でつないだり、構造化することで、シェアリング(全体共有)のときに参加者に伝わりやすくなる。



シェアリング①【10分】

ギャラリーウォークをする。

- ①他のグループを自由に見て回り、「これはいい!」「やってみたい!」というプログラムに、「いいねシール●」を貼る。

シェアリング②【10分】

全体で発表する。

- ①「いいねシール●」が多かった活動を中心に、育てたい姿や実現に向けやりたいことについて、全体で発表する。

● 熟議 モデルプログラム

テーマ わくわく地域学校協働活動を発掘！

対象 教職員、推進員、学運教委員 時間 80分

準備するもの ☐ 模造紙 ☐ マーカーセット ☐ 学校と地域の素材(赤・青) ☐ いいねシール●
☐ わくわくアイデアシート

ねらい

教育課程と、地域資源(ひと・もの・こと)を掛け合わせ、連携・協働の視点で見直し、新たな活動内容について考えることができる。

アクティビティ 【30分×2】

教育課程×地域資源で、効果的な連携・協働活動を考える。

セッション①

- ①各グループで、**教育課程(赤)**と**地域資源(青)**を1枚ずつ選び、結びつけ、やってみたい活動を考える。
- ②子どもや大人への効果を記入する。
- ③わくわくアイデアシートと、選んだ資源を模造紙やアクリル板等に貼る。

教育課程 地域資源
わくわく
アイデアシート

教育課程(赤)の例

- ・算数・数学
- ・始業式・終業式
- ・クラブ活動

地域資源(青)の例

- ・公民館・図書館
- ・地域行事
- ・特産品



CHECK!

赤、青とも無記名の用紙を用意しておき、書かれていない資源・素材については各グループで書く。
 また、足りなくなった資源・素材は、事務局で書き足す。

セッション②

セッション②は、セッション①と同じ流れであるが、セッション①で活用した教育課程、資源以外で考えることを条件とする。

シェアリング① 【10分】

ギャラリーウォークをする。

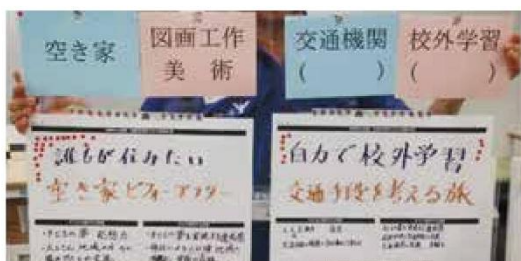
- ①他のグループを自由に見て回り、「これはいい!」「やってみたい!」というプログラムに、「いいねシール●」を貼る。



シェアリング② 【10分】

全体発表をする。

- ①「いいねシール●」が多かった活動を中心に、全体で発表する。



わくわくアイデアシート

グループ

効果的な連携・協働が期待できる活動内容

大人に期待する効果

子どもに期待する効果

※データは県教育庁生涯学習課HPよりダウンロードできます。

いろいろなワーク手法を取り入れよう！

学校・家庭・地域の現状把握

- ①学校・家庭・地域の強み（魅力）と弱み（課題）を2色の付せん紙に書き出す。
- ②付せん紙を出し合い、似た内容を集約する。
- ③魅力を充実させ、課題を解決するためのプロジェクトをグループで作成し、全体共有する。



資質向上のためのロードマップづくり

- ①CSと地域学校協働活動の一体的推進により、子ども・学校・地域の「こうなったらいいな」を付せん紙に書いて貼ったり、模造紙に直接書いたりする。
- ②「こうなったらいいな」に向けて、やりたいことを現状から3年後の姿をえがき、そこから逆算して2年後、1年後とやるべきことを書き込む。
- ③ギャラリーウォークを取り入れ、「いいねシール●」を貼ったりグループ発表したりなどして全体共有する。



子ども・学校・地域が「こうなったらいいな」に向けて、やりたいこと

	コミュニティ・スクール	地域学校協働活動
現在		
半年後		
1年後		
2年後		
3年後		

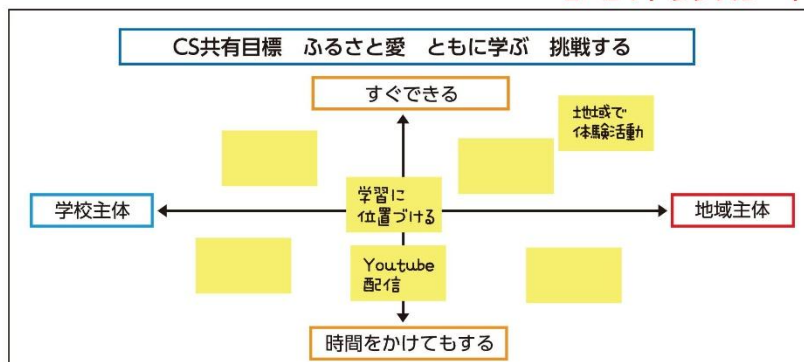
※データは県教育庁生涯学習課HPよりダウンロードできます。

取組の優先順位と役割分担

- ①学校・家庭・地域の強み（魅力）と弱み（課題）を2色の付せん紙に書き出す。
- ②付せん紙を出し合い、似た内容を集約し、題（キーワード）をつける。
- ③題（キーワード）を解決するためのアイデアを付せん紙に書き、貼りながら共有する。
- ④ギャラリーウォークを取り入れ、やりたいアイデアに、「いいねシール●」を貼り、全体共有する。
- ⑤各グループの「いいねシール●」が多かったアイデアを中心に、2×2マトリクスシートへ貼りながら、優先順位を決め、学校と地域の役割分担についても意見交換する。



2×2マトリクスシート



いろいろなワーク手法を取り入れよう！

育てたい子どもの姿の実現に向けた活動の見直し

- ①育てたい子どもの姿の実現に向けて、学校・家庭・地域で取り組んでいる活動を、赤色付せん紙に書き出し、シートへ貼りながら共有する。
- ②今、取り組んでいる活動内容から育てたい子どもの姿の実現につながっている活動であるかどうかを考えながら、「続けること/方法を見直して続けること/やめること/新たに取組みたいこと」を黄色付せん紙に書き、マトリクスシートへ貼り、熟議をする。
- ③ギャラリーウォークを取り入れ、全体共有する。

3者が取り組んでいる活動を洗い出そう！

	育てたい子どもの姿		
	夢をもち、目標に向かってやり抜く子	人とのつながりを大切にする子	県主を愛し、貢献する子
学校			
家庭			
地域			

既存の取組を見つめ直そう！

続けること	方法を見直して続けること
やめること	新しく取り組んでみたいこと

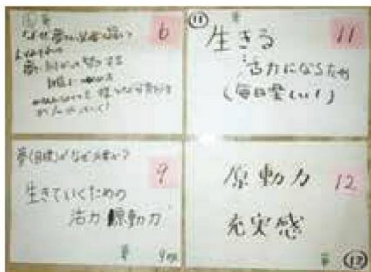


育てたい子どもの姿の実現に向けたアクションを明確化

- ①3つの内、どの育てたい子どもの姿を熟議するのかグループ分けをしておく。
- ②各グループで、それぞれの育てたい子どもの姿はなぜ必要なのかを話し合いA3用紙へ書き、全体共有する。
- ③必要性をもとに、育てたい子どもの姿の実現へ向け、できることややりたいこと、大切にしたいことなどイメージするキーワードや言葉をどんどんつなげて書き出していく（ウェビング）。
- ④ギャラリーウォークを取り入れ、「いいねシール●」が多かったキーワードからやりたいことを焦点化し、全体共有する。

育てたい子どもの姿

夢(目標)のある子
自ら考え行動する子
ふるさとを愛する子



②全体共有



③ウェビング

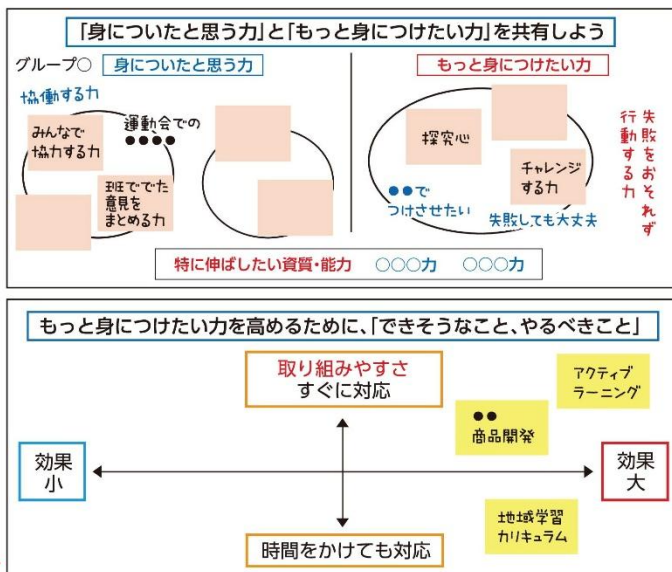
ウェビング

まん中に書いたテーマからイメージするキーワードや関連する言葉をどんどんつなげて書き出していく手法。まずは質より量を重視し、その後、絞り込んだり焦点化したりしていきます。

次なるアクションへの反映

- ①これまでの学習で、「身についたと思う力」と「身につけたい力」を2色の付せん紙に書く。
- ②1人ずつ、付せん紙を貼りながら、その理由やエピソードを共有する。理由やキーワードは模造紙に直接書き込む。
- ③同じような内容は、集約して題(キーワード)をつける。
- ④特に伸ばしたい資質・能力(③題(キーワード))を1～3個に絞り記入する。
- ⑤絞り込んだ資質・能力を高めるための手立てを付せん紙に書く。
- ⑥2×2マトリクスシートへ貼りながら、活動の優先順位を決め、次年度の計画へ生かす。

2×2マトリクスシート→



● アイスブレイクの活動例

アイスブレイクとは、場の雰囲気や緊張をほぐす役割を果たす雑談やゲームのことです。唐突に本題に入ると比べて参加者がより発言しやすく、自然体で話しやすい雰囲気を醸成できるというメリットがあります。熟議の前などで行っていただくことを推奨します。

しりとり自己紹介 【グループで】

時 間 7分程度 用意するもの なし

進め方

- 1 4～6人のグループを作る。
- 2 1番の人が名前を紹介する。
- 3 2番目の人は、1番目の人の名前の最後の文字を用いて自己紹介する。次の人は、前の人の名前の最後の文字を用いて紹介する。これを繰り返す。

- 例
- ①岡山たろうです。
 - ②うどんの好きな、倉敷はなこです。
 - ③こどもが大好きな、津山ふねです。
 - ④ねつきがよい、総社つよしです。



POINT!

- ・テンポよく続ける。
- ・1周したら、次は逆回りにしてみてもよい。

高さ積み 【グループで】

時 間 10分程度 用意するもの 積み木、ブロック等

進め方

- 1 4～6人のグループを作る。
- 2 各グループで2分間でできるだけ高く積み上げる。
- 3 各グループで1分間、より高く積み上げるための作戦タイムをとる。
- 4 再び各グループで1分間でできるだけ高く積み上げる。
- 5 より高く積み上げるために、協力して活動したことについての感想などをグループで話し合う。

POINT!

作戦タイムをとって活動することで、グループで協力して活動する体験ができる。



連想ゲーム 【グループで】

時 間 10分程度 用意するもの 模造紙、マジック

進め方

- 1 4～6人のグループを作る。
- 2 模造紙の真ん中にお題を書く。例 動物、運動・遊び
- 3 お題から連想するものをみんなで模造紙に書き込む。
- 4 何を書いたかグループ内で伝え合う。
- 5 書いた数を数え、グループごとに発表する。



POINT!

- ・グループで考えることで、たくさんのアイデアや意見が出ることや、人によって視点が違うことが体感できる。
- ・お題は、多様な意見が出てくるものが望ましい。

グーパー 【みんなで】

時 間 5分程度 用意するもの なし

進め方

- 1 右手はパーで前に、左手はグーで胸にあてる。
- 2 合図で左右の手を入れかえる。(前に出す手をパー)
- 3 何回か繰り返す。
- 4 次に、前に出す手をグー、胸の前をパーにして行う。



POINT!

- ・慣れてきたら徐々にスピードアップする。
- ・参加者と一緒に声を出して行くと盛り上がる。
- ・かけ声や歌に合わせてもよい。
- ・入れかえの間に手拍子をはさむと難易度が上がる。

地域と学校の連携・協働キーパーソン
推進員・地域連携担当教職員・行政職員

役割チェックリスト

このチェックリストは、推進員・地域連携担当教職員・行政職員それぞれが地域学校協働活動を客観的に捉え、活動の評価・改善を行いながらマネジメントしていただくために作成しました。

チェックリストにデータを入力すると、レーダーチャートに反映されますので、ダウンロードして活動の振り返りにご活用ください。



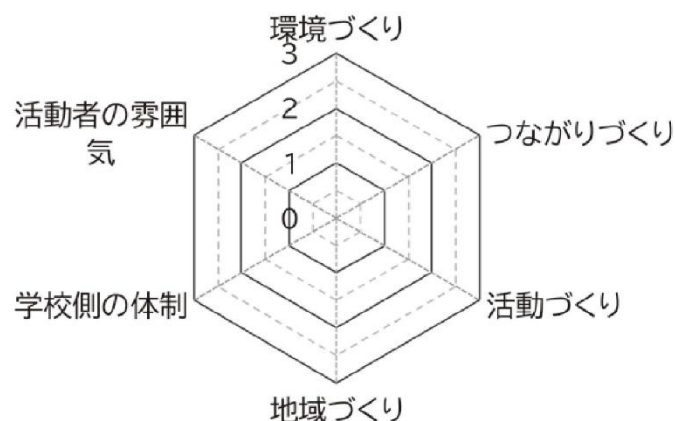
チェックリストをダウンロード
(岡山県教育庁生涯学習課HP)

地域学校協働活動推進員等としての役割

- ◆「活動者」とは、地域学校協働活動に参加している地域の方々を指します。
- ◆「推進員」とは、地域学校協働活動推進員(コーディネーター)である、あなたを指します。
- ◆地域の教育資源(ひとものこと)とは、偉人や地域住民、公園や文化財、企業等社会基盤、団体やネットワーク、ボランティア、伝統文化など、様々な人や物、事象のことです。

※ 1:当てはまる 0.5:やや当てはまる 0:当てはまらない 数字を入力してください。

	連携窓口として行ってきたこと・学校や地域の状況	チェック欄
環境づくり	1 学校と地域がともに目指す子ども像を共有している	
	2 教員や活動者との打合せの機会を確保している	
	3 守秘義務の徹底など、活動における注意事項を十分に活動者に伝えている	
つながりづくり	4 学校のニーズに応じた地域の教育資源(ひとものこと)を把握し、協働活動につなげている	
	5 活動に必要な情報など担当教職員との連絡調整を密にしている	
	6 活動者同士のネットワークづくりを意図的に構築している	
活動づくり	7 学校や地域の課題を把握し、活動の企画に生かしている	
	8 地域学校協働活動を効率的に進めていくために、活動の計画・記録を作成している	
	9 教員に地域の教育資源の情報提供を行うなど授業内容の充実支援に努めている	
地域づくり	10 地域学校協働活動をきっかけに新たな地域での活動を企画している	
	11 地域学校協働活動の状況を広く地域等に情報発信している	
	12 学校に関わる活動だけでなく、活動者とともに地域での活動(体験活動、貢献活動等)を行っている	
学校側の体制	13 学校は積極的に地域学校協働活動を進めようとしている	
	14 コミュニティルームなど活動者に配慮した環境づくりがなされている	
	15 学校は、地域連携計画を推進員等の意見をききながら作成している	
活動者の雰囲気	16 責任をもって活動に参加する活動者が多い	
	17 活動者は、楽しみながらやりがいをもって活動している	
	18 活動者同士が互いに助け合いながら活動している	

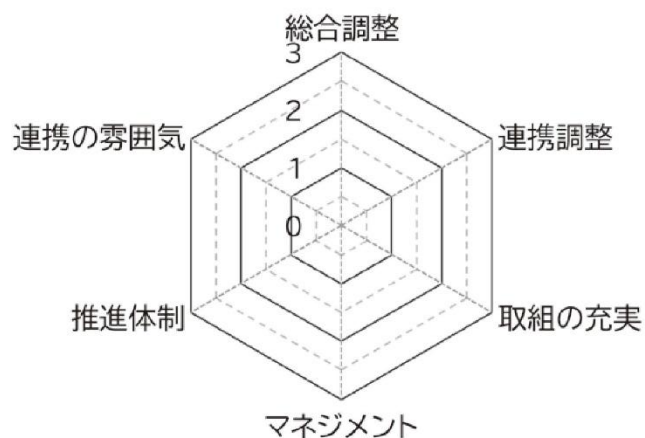


地域連携担当教職員としての役割

◆「推進員」とは、地域学校協働活動推進員(コーディネーター)を指します。

※ 1:当てはまる 0.5:やや当てはまる 0:当てはまらない 数字を入力してください。

	連携窓口として行ってきたこと・学校の状況		チェック欄
総合調整	1	地域連携に関する校内研修を実施している	
	2	地域連携全体計画、年間計画等を作成している	
	3	教育課程への地域学校協働活動の位置づけをしている	
連携調整	4	地域連携やボランティアに関する情報収集や発信を行っている	
	5	地域連携に関する教職員の要望を集約している	
	6	推進員との打合せの機会を作っている	
取組の充実	7	地域学校協働活動の充実のための助言を教職員にしている	
	8	地域学校協働活動の進め方について教職員に助言している	
	9	「何のためにするのか」目的意識をもった地域学校協働活動の支援をしている	
マネジメント	10	地域連携に関する校長の経営方針が明確になっている	
	11	地域学校協働活動の効果をアンケート等で評価し、改善に努めている	
	12	地域学校協働活動の実施状況の把握に努めている	
推進体制	13	地域連携の調整をチーム(複数名)で進めている	
	14	推進員が配置されている(コーディネート機能)	
	15	地域連携担当教職員が活動しやすい環境になっている	
連携の雰囲気	16	地域連携の意義について理解している教職員が多い	
	17	管理職が地域連携を進めていこうとする意志が強い	
	18	地域連携を進めていこうという教職員が多い	



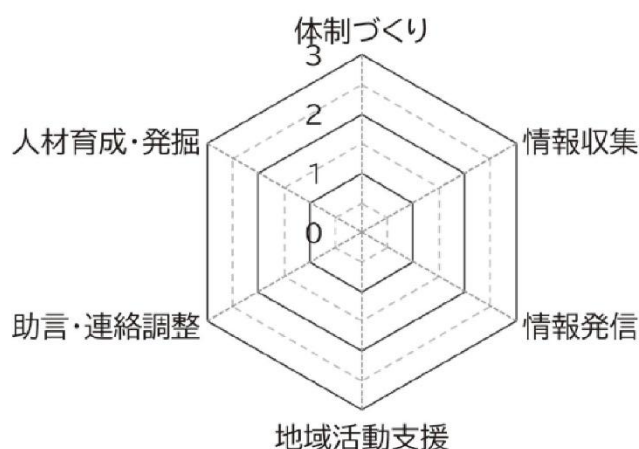
行政職員としての役割

◆CSとは、コミュニティ・スクールの略称です。

◆「推進員」とは、地域学校協働活動推進員(コーディネーター)を指します。

※ 1:当てはまる 0.5:やや当てはまる 0:当てはまらない 数字を入力してください。

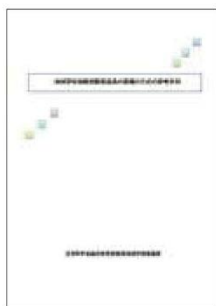
	行政の伴走支援・学校や地域の状況		チェック欄
体制づくり	1	CSを設置し、地域学校協働活動との一体的推進に取り組んでいる	
	2	推進員を全校区に配置している	
	3	市町村(あるいは中学校区)に、学運協等連絡会の組織体制を整備している	
情報収集	4	推進員の情報を収集・集約している	
	5	市町村内のCSと地域学校協働活動の好事例等の情報収集をしている	
	6	県主催の研修会へ出席している	
情報発信	7	地域学校協働活動やCS(設置済市町村)について、地域住民への理解促進をしている	
	8	各校区の間組状況を情報共有している	
	9	CSと地域学校協働活動の好事例等を推進員へ紹介している	
地域活動支援	10	公民館等の学習サークルと推進員のマッチングをしている	
	11	地域学校協働活動参加者を地域の活動へ誘導している	
	12	地域住民による地域学校協働活動の継続支援をしている	
助言・連絡調整	13	CS主管課との連絡調整を行っている	
	14	活動プログラムの作成を支援している	
	15	推進員間の連絡調整をしている	
人材育成・発掘	16	関係者によるCSや地域学校協働活動の研修会等への参加を支援している	
	17	推進員同士の交流の機会を創出している	
	18	推進員のスキルアップのための情報提供をしている	



9 参考文献等一覧

このガイドブックを作成するために、参考にした資料です。
くわしく知りたい方は、QRコードよりダウンロードしてください。

文部科学省



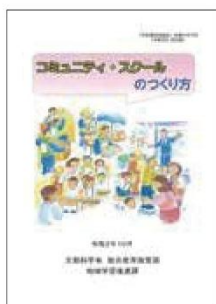
「地域学校協働活動推進員の委嘱のための参考手引き」



「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」



「これからの学校と地域」



「コミュニティ・スクールのつくり方」



「コミュニティ・スクール2018」

岡山県教育委員会



ホームページ
「地域と学校の連携・協働に関わる研修」



「地域から信頼され応援される学校づくり～地域学校協働活動のススメ～」



ホームページ
「夢育パートナーズ」

その他

- ・ NPO法人みらいずworks教育ファシリテーション入門 ～人と集団が成長する場をつくる～
- ・ NPO法人みらいずworks協働デザイン入門 ～地域と学校とともに学びをつくる～
- ・ NPO法人みらいずworks「私たちのコミュニティ・スクールのつくり方」

※このガイドブックは、岡山県教育庁生涯学習課のホームページからダウンロードできます。

<https://www.pref.okayama.jp/site/16/1004179.html>



地域と学校のよりよい連携・協働を目指して
～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進へ向けたガイドブック～

令和7年11月発行

編集・発行

地域と学校の連携・協働推進会議
岡山県教育委員会

〈問い合わせ〉

岡山県教育庁生涯学習課
〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6 TEL (086) 226-7597